

<投資の裏側>

最初の設定を見直す
～行動ファイナンス⑤～

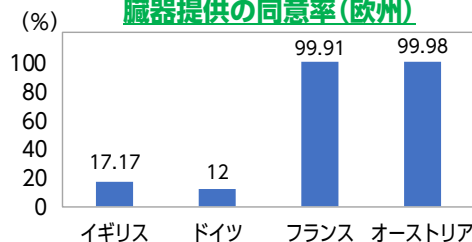
「投資INSIDE-OUT」～行動ファイナンス～では、「投資家は必ずしも合理的な判断をする訳ではない」との仮説を検証していきます。

◆本当にデフォルト値のままで良いのか？

デフォルト値＝初期設定値 この設定値が人生に大きく影響を与えることがあります。

デフォルト値を説明する際、有名な例として臓器提供の意思表示があります。日本を含む多くの国では、脳死または心停止と判定された場合、自分の臓器等の提供について、事前に意思表示をすることができます。「提供する」人の割合は、フランス、オーストリア、ポルトガル、ポーランドではいずれも99%を超えています。なるほど、欧州では理解が進んでいる、と納得しそうですが、一方、同じ欧州でもドイツは12%、イギリスは17%とこちらは「提供する」人の割合が極端に低くなっています。

臓器提供の同意率(欧州)



(出所) Medicine.Do default save lives? (2003年) を基に
三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

この違いは、正にデフォルト値が影響しています。フランスやオーストリアなどは意思表示を特にしなければデフォルトで「提供する」になり、ドイツやイギリスはデフォルトでは「提供しない」となります。ちなみに日本は選択制を採用しています。(健康保険証や運転免許証などの裏面をご覧ください。)



2019年、日本では老後資金の問題が大きくクローズアップされました。一方、米国では、年金で余裕のある生活を送る老夫婦の話も聞かれます。違いは何にあるのでしょうか。

日本には企業型確定拠出年金 (DC) や個人型確定拠出年金 (iDeCo) など加入者が自分で運用先を選択できる私的年金があります。これらの多くは、デフォルトのままであれば、定期預金など元本確保型商品での運用となります。2018年時点で、●DCの資産構成比は預金等元本確保型商品が51%、株式型やバランス型商品は38%、●iDeCoではそれぞれ前者が60%、後者は32%となっています。

一方、米国の確定拠出年金 (401k) では、元本確保型商品は長期投資にそぐわない商品との位置づけで、基本的には株式などのリスク資産に振り向けるように促されています。結果、●預金等商品は9%弱、株式型やバランス型商品は77%ほどです。40年間積み立てを続けたとすると、結果には大きな差が生じそうです。

人は難しい選択に迫られると判断を放棄しがちです。
無意識のうちにデフォルト値を選択していることを
認識する必要がありそうです。(誠上)



【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。